

2016年11月22日

第7号

全労連

全労連
憲法・平和グループ

憲法 平和闘争ニュース

国と東京電力は責任を果たせ！ 『11・13ふくしま集会』



原発再稼働ストップ、福島切り捨て政治の転換を掲げる、「国と東京電力は責任を果たせ！ 11・13ふくしま集会」（ふくしま復興共同センターの主催、原発をなくす全国連絡会の協賛）が13日、福島市で開かれ約1500人が参加しました。

東京電力福島第1原発事故から5年8カ月、いまだに8万人を超す県民が避難生活を強いられている福島県の現状を発信し、全国すべての原発の廃炉などを求める100万人署名を軸にした全国的なたたかひのスタート台にしようと、各地から

駆けつけた参加者が思いを一つにしました。

斎藤富春代表委員（福島県労連議長）が「安倍政権は原発再稼働と輸出のために、原発事故は終わったことにしようと強引に進めている。福島の実況を県内外に情報発信することと、全国闘争としての運動強化が求められている」と強調。馬場有（たもつ）浪江町長が「原発事故で日常生活も地域社会も壊された。再稼働はありえません。日本から原発をなくしていきましょう」と訴えました。

被災した母親と子どもたちによってアピールが読み上げられ、参加者全員でアピールを採択（下写真）し、最後に原発をなくす全国連絡会を代表して全労連小田川議長が閉会のあいさつを行いました。

新署名と意見広告を軸にした「ふくしまの復興と原発ゼロをめざす大運動」を大きく成功させましょう。



国と東京電力は責任を果たせ！『11・13ふくしま集会』ブログ

<http://fukushima2016-11-13.hatenablog.com/>

とめよう！原発再稼働署名（新署名）

http://www.zenroren.gr.jp/jp/shomei/data/2015/161115_01.pdf

<アピール>

東京電力福島第一原発事故から5年8カ月が経過しました。ひとたび原発事故が起きれば、当たり前前の日常が奪われ、取り戻すには長い時間が必要となること、震災関連死を含めいのちが脅かされるということ、わたしたちは身をもって体験しています。

にもかかわらず、国・東京電力は、住民の不安や不満を解消しないまま一方的に避難指示を解除し、損害賠償や支援の打ち切りをすすめ、福島を切り捨てようとしています。原発の再稼働と輸出のために、事故も被害も終わったことにしようと躍起になっています。

原発事故以降、一貫して原発再稼働反対が国民多数の声です。先の鹿児島県・新潟県の知事選挙では、原発再稼働反対の知事が誕生しました。いまこそ国は、真摯に国民の声に向き合うべきです。

いま、あらためて問いかけます。

あなたの願いは何ですか？

わたしたちはこの5年8ヶ月、安心して住み続けられる福島を取り戻すため、原発ゼロの日本を実現させるために懸命の努力を続けてきました。あの日からのたたかいで得たたくさんの新しい仲間とともに、手と手を取りあって“原発ノー”の輪を大きく大きくひろげています。このひろがりにはけっして逆戻りすることはありません。

時間の経過の中で、一人ひとりの思いや願いは違っても、わたしたちは、最後まで「国と東京電力が責任を果たすこと」を求めます。

「福島第二原発は廃炉とすること。また全国すべての原発の再稼働はおこなわず、廃炉とし、再生可能エネルギーに転換すること」

「政府の全責任で、汚染水対策など福島第一原発の事故収束・廃炉作業をおこなうこと」

「政府と東京電力は、避難者の実情に応じた住まいの確保、生業の再建、徹底した除染と完全賠償、県民の健康管理への責任を果たすこと」

いのちと原発は共存できません。

なによりもいのちが大切にされる、憲法が生きる政治をとりもどしましょう。

とめよう！原発再稼働 かえよう！福島切り捨て政治

2016年11月13日

国と東京電力は責任を果たせ！11・13ふくしま集会